

中小企業 海外展開 事業

『知らないなんて、もったいない』 中小企業海外展開支援セミナー in 北見 を開催しました。

1月20日、北見市にて、中小企業基盤整備機構、日本貿易振興機構との共催で中小企業海外展開支援セミナーを開催し、オホーツク地域の企業、団体から32名にご参加いただきました。



セミナー会場

セミナーでは、各機関の海外展開支援事業の紹介の他、JICA中小企業海外展開支援事業を活用してパラグアイでのビジネス展開に取り組む、株式会社わだまんサイエンスの代表取締役・深堀勝謙氏にご講演いただきました。「社長の熱意が伝わり、海外展開に興味を持った」「海外展開の具体的なイメージが持ちやすかった」等の前向きなコメントが寄せられました。ご参加、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

深堀社長の講演



中小企業 海外展開 支援事業 ～基礎調査～

採択企業が決定しました。



アイスシェルター外観

モンゴルの生鮮品貯蔵を変える、 省エネ低温貯蔵庫

株式会社 土谷特殊農機具製作所

モンゴルでは、新鮮な野菜や畜産物の流通がスムーズに行われていないため、広域に流通するのが難しい状況です。そのため、農牧業に頼っている地方経済の成長が滞り、都市部と地方の経済格差は拡大しています。今回提案されたアイスシェルターは、自然氷を利用し、一年を通じ安定して0度の低温環境を維持できる低温貯蔵庫です。維持費がほとんどからないこの貯蔵庫は、モンゴルの流通を変える可能性を秘めています。本調査では、低温貯蔵庫にどのくらいニーズがあるのかなどを調査します。



シェルターを作っているところ

浜中町が誇る、 ウニ養殖技術をベトナムへ

マルキ平川水産株式会社

ベトナムでは、農水産業が主力産業の一つとされているものの、開発は遅れている状況です。水産業では、魚介類の乱獲を防ぎ、付加価値を向上させるための漁法、冷蔵・冷凍方法や流通手段などの改善が求められています。北海道浜中町は世界でも有数のウニ養殖地です。浜中町が誇る高度な養殖、蓄養技術や製造技術等のノウハウは、将来的にウニに限らず、養殖品・水産加工品の付加価値向上に活用されることが期待されます。今回の調査では、海洋調査やビジネスプランの作成、海洋養殖開発研究センターや大学との連携の可能性を探ります。



丁寧に手作業で箱詰め



イベント 報告



体験型学習プログラムで楽しみながら世界を学ぼう！ 高校生国際協力体験プログラム

1月7日(土)に実施したこのプログラムは、帯広畜産大学の学生やJICA研修員の協力のもと、日本と途上国(フィリピン)の「同じところ」と「違うところ」に気づくと共に、自分にできる国際協力を考える体験型学習です。当日は道東地域に住む高校生21名が参加してくれました。高校生から特に反響が大きかったのは「貿易ゲーム」です。このゲームは世界の縮図を表した仮想世界を体験できるもので、途上国が貧困からなかなか抜け出せない原因や、国際マーケットの理不尽さ、フェアトレードの大切さなどを疑似体験しながら学びました。高校生からは、「分かりやすく先進国と途上国の違いを理解できた」「なぜお金をかけたいと思うのかに興味をもった」といった感想が寄せられました。今年度の高校生国際協力体験プログラムは更にパワーアップして実施いたしますので、お楽しみに！



イベント 報告

世界にワクワク！イベントで気軽に途上国と触れあおう！ 「国際フェスタinとかち2017」を開催しました

2月11日(土)、12日(日)の2日間にわたり「国際フェスタinとかち2017」を開催し、2日間で1,550人の方にご来場いただきました。今年の無料映画上映会では、ブラジルのスラム街に生きる子どもたちを描いた「ストリートオーケストラ」と、ファッション業界の裏側に迫った「ザ・トゥルー・コスト～ファストファッショ～真の代償～」の2作品を上映しました。来場者からは「音楽を通じて自分の居場所をみつけていく、人とつながっていくのが素敵だと感じた」、「目の前の服にしか興味がなかったが、誰によってどのように作られているのか知ることができた」などの声をいただきました。また、フェアトレードコーナーは両日ともにたくさんの方が訪れ、買い物を通じてフェアトレードの取り組みを身近に感じていただくことができました。その他、キッズコーナーやJICA館内ツアーなどにもたくさんの方々にご参加いただきました。来年の「国際フェスタ」でも、皆様とお会いできるのを楽しみにしています！



フェアトレードコーナーでお買い物



JICA北海道(帯広)では、開発途上国から来た多くの研修員が、自国で必要とされている知識や技術を学んでいます。

ベリーズからやって来たビクターさん



研修コース:青年研修中南米広域消防・救急救命コース
■名前:ビクターさん
■出身:ベリーズ国
■共通言語:英語

Hello!
こんにちは!



Q1 ベリーズってどんな国?

中南米の景観が美しいカリブ海に面し、多彩な人種で構成される人口約34万人の小さな国。観光業が盛んで世界で2番目に大きいサンゴ礁が有名です。

Q2 JICAでの研修の目的は?

私は国の防災を担当する部署で働いていて、日本の消防技術や活動を学び、国の防災システムの底上げを図るためにきました。

Q3 日本での生活はいかがですか?

雪を見るのが初めてなので、美しい景色に魅了されています。どこも清潔で、日本人はとても親切。高齢者でも元気な方が多いです。

Q4 日本でやってみたいことは?

ぜひ、スケートに挑戦してみたい。また、ベリーズでは、一番高いビルでも8階建てなので、東京の高層建築をじっくり見てみたいですね。



ボランティアの現場から



皆で体を動かそう!



紙飛行機を作ったよ!

青年海外協力隊



上田 尚広さん

派遣国:スリランカ
出身:遠軽町
職種:障害児・支援
派遣期間:2016年1月~2018年1月



私の任地は、スリランカ東部州アッカラライバットウという町で、住民の90%がムスリム(イスラム教徒)の方々です。東部州はスリランカ国内でも気温の高い地域で、北海道で生まれ育った私としては過酷な環境ですが、スリランカに来て一年が過ぎ、今ではすっかり馴染むことができました。

配属先はアッカラライバットウ教育事務所で、管轄している小学校の内、特別支援学級が設置されている3校を巡回し、特別支援学級運営の支援を行っています。日本とは文化や教育観が

学校で教え子との1枚



異なるため、現地の教員に自分の考えをうまく伝えることができず、歯がゆい思いをすることもありますが、毎日充実した生活を送ることができます。残りの任期も、スリランカのため、子供たちのために、自分の経験を活かし貢献することができるよう頑張りたいと思います。

~JICA研修を支えてくださっている方をご紹介します~

防災まちづくり研究所

代表 水藤 恒彦 さん

Q1 国際協力(JICA研修事業)に携わるようになったきっかけを教えてください。



中南米からの研修員

帯広市消防本部に38年間勤務し、最後の2年間は消防長を務めしていました。12年前に現役を退きましたが、今回JICA北海道(帯広)が広域消防コースを実施するということで、消防局を通じてコースリーダーの依頼がきました。

とかち広域消防局でのロープ訓練



写真:とかち広域消防局

Q2 JICA研修に対してどのような想いでご協力いただいているか?

最初に依頼が来たときは不安でした。これまで消防活動について、市民を対象にお話する機会はあったのですが、外国の方と関わった経験はなかったからです。しかし「未知」だからこそ、世界各国の消防事情がどのようなものなのか知りたいという思いがあり、協力を決めました。

足寄消防署で。
後列右端が水藤さん



写真:とかち広域消防局

Q3 思い出に残っている研修のエピソードを教えてください。

前回行われたトルコの研修では、研修員がとても熱心に参加していました。彼らの姿から、世界の消防に携わる方々は「市民の生命・財産を守る」という崇高な想いを共通して持っていると感じました。また、国によっては緊急通報用電話番号(日本は119番)が県や市によつて異なることや、消防団がないという話を聞き、驚きました。研修員には、日本の消防や行政の優れたところを学び取り、各々の国で市民のために役立てて欲しいです。